

意見書案第10号

核兵器禁止条約に世界最初の被爆国として条約参加を求める意見書

上記事項に関し、別紙のとおり意見書を提出することについて議会の議決を
求める。

平成29年9月28日提出

提出者	中間市議会議員	田中多輝子
賛成者	〃	田口澄雄
〃	〃	柴田芳信

核兵器禁止条約に世界最初の被爆国として条約参加を求める意見書

日本は、世界最初の戦争被爆国であり、核兵器によって多くの人命を失った国です。

今回、国連会議で、核兵器禁止条約が採択された背景には、世界最初の被爆国である我が国の被爆者の命がけの核兵器廃絶の運動と、長年にわたる核兵器の非人道性、違法性への告発があったことも大きな要因の一つです。

国連会議では、こうした運動とは逆行した日本政府の態度に、多くの国から失望と抗議の声が寄せられています。国連の、日本政府の席には、「あなたがここにいてくれたら」とのメッセージの書き込まれた折り鶴が二度にわたっておかれていました。

「人類と核兵器は共存できない」核兵器禁止条約は、まさにこの願いの体现であり、世界の3分の2近くの122の国が賛同して採択されたのもこの思いからです。

いま、世界平和とともに日本自身の平和を守るためにも、自らの意思をもって、そのために行動しなければならないと思います。

いつまでも、アメリカの核の傘の下で、アメリカ頼みの力の均衡による「平和」に身をゆだねることは、かえって危険です。今までのアメリカの世界政治における動きを見ればそのことは明白だと思います。

今、国際的には、こうした軍事力を背景とした軍事ブロック中心の流れから、平和への話し合いを中心とした友好協力条約締結への流れが主流となっています。

核兵器禁止条約の署名は、国連本部において9月20日からすべての国に対して開放されています。日本政府の、署名はまだ間に合います。

以上のことから、本市議会は、政府が核兵器禁止条約に署名するよう強く求めます。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

平成29年9月28日

中 間 市 議 会

衆議院議長 大島 理森 様
参議院議長 伊達 忠一 様
内閣総理大臣 安倍 晋三 様
防衛大臣 小野寺五典 様
外務大臣 河野 太郎 様